

第5回検討委員会における主な委員意見等

住民主体のまちづくり全般に関する事	住民が自分の住む町に興味を持ち、自ら課題解決を図っていくためには、住民がしっかりしないといけないということではなく、地域活動をしている側の問題もあると思う。情報の共有や対話が重要であり、活動者はもっとそういう意識を持たなければならない。
	インターネットで幾ら若者向けに発しても、高齢者福祉の充実を考えるから参加してください、安全・安心のまちづくりをやりますから参加してくださいと言っても、自分の身の回りでそういう問題があれば来る方はいるかもしれないが、現実的には、そこに若者が参加するというのは無理があるような気がする。 また、たとえば平日の昼間の会議では、働いている人の多くは参加できない。結局、どういう人をターゲットにしてどういう対策を打つかということを明確にしないと、何か話がぼやけてしまう。本人の意思で知ろうとしない人、やりたくない人に幾ら言ってもどうしようもない。入りたいけれども、どうやったらいいのかなという人たちを集める際は、一つ一つの課題ごとに、具体的に考えていくべきではないだろうか。
	今、地域には何が求められているのか、一つ大きな柱になるようなものをきちんと示して、その上で、個別にどうするかということを話すべきだと思う。 その上で、様々な立場の人たちみんなで知恵を絞って、どういうまちづくりをしていくか話し合っていくべきだと思う。本気で町を再生してやろうとするならば、まちづくり部局だけでなく、保健、福祉、社会教育を含めて全体で大きな柱となるようなものをまずつくるといぐらいの意気込みを見せるべきだろう。
	各校区が平等に同じことをしないといけないという話をそろそろ考えないといけない。志賀島と百道浜、警固など、地域性が異なり同じような形でやれるわけがないのに、なぜか行政は同じように考える。
	私自身が地域の中ではなかなか活動できていないが、やはり知らないという状況がある。地域の課題や問題だけでなく、地域ではどういう役をどういう人たちがやっているのかということさえ知らない。地域に参加できれば参加したいと思う気持ちはある。たとえば仕事帰りで、時間があればそういうことに参加できればとか、それで許されるのであれば参加できればと思う気持ちがあるので、知らしめる場として地域運動会、もしくは小学校、中学校の運動会でも可能であればと思う。
	見える化というか、パフォーマンス化。安心・安全やホスピタリティーの部分でいうと、地域の定例的活動が何かしらあるのだろうが、より見えるパフォーマンスになったら良い。例えば、青空公園で健康で太極拳をやっているお年寄りが非常に多いと、何かしら犯罪抑制につながったりする側面がある。福祉の活動もそうだが、やっている人たちの姿が定例化・継続していると、何かしら人は一人でも二人でも増えてくるというような雰囲気がある。雰囲気づくりができれば、その町自体が何となく健全な雰囲気になっていく。あの地域の活動に参加しないと何か損だよという雰囲気づくりができれば一番理想である。
	成功事例は確かに参考になる。ただ、気を付けないといけないのは、その地域にとっては成功であっても、他の地域では違う場合もある。結局、自分たちの町は自分たちでつくるしかなく、やはり自分たちで知恵を出すということが重要。

住民主体のまちづくり全般に関すること	新たな事業を起こすことによって、一つの大きな課題が解決していく部分もあるのではないかということを強く感じている。そして、地域の特性を生かしたまちづくりが最も重要だろうと思っている。 また、少し広いエリアでの取り組みとして、私どもの校区を含めて4校区が土砂災害区域に指定されており、災害が起きたときにその4校区でどういう協力体制がとれるか、そういうことについて、今、具体的に話し合いながら、どうすればまちの安全が確保できるかということに取り組んでいる。さらにきめ細やかな、特徴を生かしたまちづくりが進むようにしていきたい。 今までどおりの活動だけで精一杯になっているのが7割だと思う。だから、そろそろイノベーション、変革が必要。 その変革で一番重要なのは組織。みんなわかっているのだが、今までどおりの組織でやっている。実は、おやじの会以外はみんな官製団体だが、意外に皆さん知らない。 そういう意味からすると、イノベーションというのは何かというと、きっと変化に早く気づくということ。地域の変化に気づかないといけない、それが今一番不足している。淡々と今までのことをやっていくのではなく、変化に気づいて組織も若干変えていくというぐらいの視点も必要ということ。 今後、一番大きな変化が期待できるのは、地域で動いている企業かもしれない。私の地域の事例で、協定を結んでいたガソリンスタンドに「何か宣伝してあげようか」と言ったら、「そういうことが出来るのであれば割引券を渡してもいいですよ」というふうに言われた。私どもの地域は約3,000世帯だが、我々は行政と同じような力を持っているようで、それは相手にとってはものすごく魅力に映っているようだ。そろそろ、そのような半行政的な力を意識してもいいのかもしれない。
まちづくり計画に関すること	こういう形で、まちづくり計画や将来像を前面に出す必要が出てきた時代かなと、非常に重要だと思っている。 校区全体のまちづくり計画そのものについては、地域にはこれまでも地域包括ケアの話や地域安全マップづくりの話がきており、それらと何が違うのかしつかり説明していくことが重要。この計画をつくると何が変わるのか、どんな動きがあるのかということを知らせないと、地域の人たちには、また計画かというように映ると思う。 校区では、例えば安全・安心マップであったり、子育てマップであったり、いろいろ行政が関わって地域主体でつくっているものがあるが、それらを横につないでいく必要があるといつも感じている。地域のまちづくり計画というのは、地域におけるマスタープラン的な位置づけを持って、そして思いを形にしていこうということを担保するものでなければならない。 夢物語というのは大切だと思う。単にそれだけで終わってはならない、それを実現していく必要があると思っている。計画自体も、単に行政に対する要望だけではなく、地域みずからができること、そういった部分も含めて大きな視点で考えていく必要があるし、またそれが一部の人だけでつくる計画とならないよう、また、それが地域のやらされ感につながってもいけないと思う。 まちづくり計画において、校区の地域課題をすべて真面目に考えていたらとんでもなく時間がかかってしまうのではないかと思う。あらかじめ、ある程度メニューやテーマを絞り込んでおかないといけない。また、地域課題を解決するためだけの計画づくりでは反対にぼやけてしまい、よく分からなくなるのではないかという気がした。逆に、一つのことに集中しすぎると、さらに深みにはまってそれだけで議論が終始する可能性もある。そこは工夫が要るだろう。

まちづくり計画に関すること	校区単位では、置かれた地理的条件などが全く違うということからも、地域の方々の意向を十分に聞きながら、それぞれ地域にあった目標をきちんと立てるべきだと思うし、立てるからには、自分の校区は何を目標としているのか、また、皆さんが安心して生活できる環境をどうやってつくっていくのかという視点が、まちづくりを進めていく上で基本だと思う。
	目標を立てるのが目標ではなく、いろいろな住民の方々、例えば高齢者、若者、子どもなど、そういう意見をどうやって取り込むか、つくるまでのプロセスがとても大事だと思います。いろいろな意見を反映させることによって校区の実情もわかるということです。 そのためには、行政側も、福岡市全体がどういう方向に向かっていくかということをきちんと示していきたいと思います。
	今、地域を支えているのは70歳以上の結構元気な方たち、この方たちが中心となって活動しているというのは多分間違いないと思う。例えば、若い人を大事なポジションに据えようとしたときに、結構、そういった方たちが「いや、まだ彼は経験不足」とか「若い」とか言われることもある。 地域まちづくり計画の中で校区目標を立てるときにお願いしたいのは、例えば20代の方や30代の方は何人とか、年齢層ごとに必ずその会議に入れるようなメンバー構成にしてほしいということ、そういう人たちが参加しやすい会議体系や雰囲気づくりをしていただきたいと思う。
	まちづくり計画づくり、これは人材育成だと思う。このプログラムそのものが人材育成のプログラムになっており、それを1年もやれば人が育っているはず。人が育たなかったら、このプログラムはだめだということ。
	以前、区の振興プランづくりなどに参加したが、将来を担う人たちは若い人たちなのに、なぜか考えるのは年配者ばかり。まずまず生きてきた中での反省も踏まえて、みんなに良かれと思ってつくっているのだろうが、実際、若い人たちには「えー、何でこんなの？」というような形のものも意外とあるようだ。 今回の地域まちづくり計画についても、将来を担う若い人たちの視点もないと、机上の空論に最終的には終わってしまうのではないかという心配がある。
	ある地域で10年前にまちづくりワークショップに参加した。そのとき、4回シリーズで実施したが、小学校6年の女の子が二人、自主的にずっと参加されていた。その子たちが10年たって、今、地域活動を担っている。当時、自分たちで計画をつくったからだろう。 やはり小学校や中学校でも思い切って地域のまちづくりに関するワークショップなどを1回やっておかないと。自治会・町内会加入率の話も含めて、小学生や中学生は、地域にマイナスのイメージを持っている。親がみんな地域活動から帰ってきて「きつかった」「大変だ」と言うから、大学生も全て、自治会、町内会をやったことがないのにマイナスイメージが植えつけられている。 そのようなイメージをなくすためにも、今言われたまちづくりに対しては、小学校、中学校が積極的にやってくれると結構盛り上がるし、案外、中学校も求めているのではないかな。今はそういうカリキュラムもある。そういう時代に入ったのかも知れない。
	私としては、地域まちづくり計画というキーワードを聞くと、何かガイドライン倒れな気がして、具体的なものが見えてこない。書いていることは正しいと思うが、ただ、それがアクションを伴うのかという点で、何かぴんとこない感じがする。

地域活動への参加の工夫と人材の発掘・育成に関すること	情報の発信については、やっている地域側としても、相手が今までとは変わってきており、ペーパーが必要な人もいれば、ソーシャルネットワークが必要な方々もいるということをしっかり理解しなければならないと思う。 結論的に言うと、若い人たちに対しては、やはりインターネット発信を充実すべきということ。お年寄りに対してはペーパーが必要であり、必ず並列だと思う。
	地域にはいろいろな人々があり、若い人からお年寄りまで、皆、社会に何かしたいと思っている。ですから、人材発掘が大事。それぞれのテーマに応じて人はいる。その見つけ方を地域も行政も分からないだけ。
	たとえば運動会や夏祭りを開催した場合、やって終わりではなく、どれだけの人が新たに知り合いましたとか、新たな人が参加するようになったといった視点が大事。若者、高校生が夏祭りを手伝うようになったらすごい成果だし、団塊の世代も然り。一つ大きな柱としてはそういうものがある。
	昨日、市外のある地域でスーパーに入ると、中学生がジャージを着て就業訓練みたいな形でお店に立っており、いいなと正直思った。地域にかかわっているなという雰囲気を受けたので、何かそういうことも取り入れられないかと思う。
	やっぱり人材育成なのだろう。モデルケース、成功事例があれば、何か一つそれを取り入れ、事例としてやってみるというものもあるのかなと思う。
	まちづくりに率先して動いていただくのはおそらく自治会・町内会長だと思う。一般の自治会・町内会長に対しても、いろいろと研修などしていただかないと、うまくまちづくりが進まないのではないかと思う。
	情報の発信については、集まったときにどれだけやるかも大事だが、自分たちがそれをその場で一生懸命やるようなツールが望まれる。たとえば、ブログの発信について、学生とか、やりたい人間がいるはずなので、そういう人間をどうにかして活用できないかということ。月に何万円か謝礼を渡してもいいし、学生側としても、つくった自分の広報紙を成果にすればいいわけだから、たとえば就職活動の際のPRに使ってもらえば良い。
	人材育成については、まずは役員等を引き受けた方たちの意識改革が必要。
	若い方の参加について、他でもやっているかもしれないが、私どもの校区では、毎年、千人ほど集まる体育祭をやるが、そのときは、中学校と話し合っ、用具係などいろいろなものは全部中学生に頼んでいる。その日は「済みませんが、部活を休んでもらって、中学生が全員出てこられるように」とお願いし、各町3名なら3名ずつ、36人の中学生にお手伝いしていただいている。
	今、校区として一生懸命力を入れているのは、中学生をいかにジュニア・リーダーとして育てられるかということ。その中から一人でも二人でも校区に帰ってきてくれる子がいれば、中学生のころの楽しかったこと、勉強したことを地域に還元してくれるかなと思い、2年前から青少年育成連合会の会長や中学校にも相談しながらやっている。
	PTAについても、自分の子どもが学校にお世話になっているときだけの参加ではいけない。地域の一員だから、PTAと同様にかかわってほしい。それと、おやじの会。やっぱり男性の方のお手伝いが欲しい。力仕事もいろいろあって、女性には難しい部分がある。そのとき、男性の方にありがたいと言いながら、楽しみながらやっていただければ良い。

強い絆の地域づくりに関すること	「行政にできないことは地域で対応を」と。高齢者の見守りもそう。実際、これから超高齢社会になってくると、確かに重要だとは思ふ。現実それをやらないと、おそらく、今から社会は回っていかないのだろう。 しかし、足元の地域を振り返って見ると、なかなか難しい問題だと感じている。
	超高齢社会については誰も体験したことがないので分からない。行政も分からない。では、地域が何をよりどころにしていくかという、自分たちで考えるしかないけれども、やはり情報が必要ということ。そしてそれは、絆というか、面識、住民がお互い知り合いになることだと思う。
	まずは、何といっても安心・安全のまちをどうつくり上げていくのか、子どもからお年寄りまでが安心して住める地域づくりが一番基本だと思っている。そして、公助に頼るだけではなく、まずは自助、隣近所がよく知り合って、向こう3軒両隣で、隣の人が何をしているか、いつどういう形で留守をしているか、あるいは病気をしているかということなどがいつでもわかるような状況を日ごろからつくっておくことが大事である。
	自治会・町内会に対する加入率のアップ。地域の皆さんに必ず町内会に加入していただき、地域のいろいろな活動に参加していただくことが一番重要だと思う。その中から、隣近所お互いの顔を知り合うことで、何かあった場合は助け合うという気持ちが日常的にできてくるのではないだろうか。
	最近、地域包括ケアシステムという言葉が聞かれると思います。超高齢社会に向けて、行政も頑張りますけれども、公助だけではなかなか難しい。自助、共助もありますが、全体で見るときに、校区の特性を踏まえながら進めていくのですが、やはり地域と一緒にできれば。地域の防災なども全部含めてそう思います。視点は行政のほうも持っているが、それだけでは難しい。そのような経験からも、行政も支援しながら、地域がそれぞれの校区の実情に応じていろいろな目標をつくっていくというのが望ましいと思います。
	絆づくりはまちづくりの柱なのかもしれない。絆づくりから始まって、最終的には、高齢者の見守り、生活支援。
	絆づくりについて、昨年、地域デビュー応援事業に取り組んだところ、これまでの事業と違って新しい事業ということで、当初の予定よりも多くの住民に参加いただいた。感じたことは、新しい事業にいろいろ取り組む必要もあるということ。特にこれは3年計画でやるので、初めて参加していただいた方々にも今後協力していただければと思っているが、将来的には、全体のまちづくり、コミュニティづくりの役員になっていただけないかと期待している。校区においても、今までと違った新しい事業を考えて取り組んで、いかに住民の方々に参加していただくかということを考えていく必要があるかと思う。

社会全体に関すること	今、求めるものと現状にギャップがあり過ぎる。確かに、まちづくりに興味がなくて行きたくないという人もいるかもしれないが、それだけでは済まないところがある。なぜ地域が活性化を失ってしまったのか、その原因をまず考えないと、幾らいろいろ話をしてても建設的な話は出てこないという感じがする。 これから本当に地域を再生しようと思ったら、まず働き方を変えることも含めて、社会全体をダイナミックに変えていかないと無理である。そうでなければ、おそらく何年たっても、毎回、同じような議論が出てくるだろう。 子どもたちは親を見て育つわけだが、今の親、まちづくりに参加していない親を見て育った子どもたちが親になったら、やはりまちづくりに参加しない。実際、働くことが重要になってきて。 そういう意味からすれば、ただ単にどこかの部局とか、どこかの人たちだけが話すのではなくて、社会全体で、みんなが危機感をもって考えなければならない時期ではないか。社会や企業が目指す姿という話、このような視点は非常に重要になってくると思う。
行政に支援してほしいこと	行政は、しっかりと地域に寄り添ってやる、そのためにはコーディネートが重要。校区担当職員は、現在は1人4校区ぐらい担当されているが、これからはその人数では足りないのではないかと。地域の話をよく聞いて、その地域性に応じた対応を行っていく。その際、校区に温度差があってもやむを得ないと思う。148すべての校区を平等に対応しようとしたら、どれだけ人数が必要になるかという話なので、地域性の範囲で、ある程度、差が出て仕方がないという視点もあるのかもしれない。 新しいマンションができたときに、そのマンションが町内会に加入するかどうかはそのときにかかっている。特に、最初に相談に来られたときが重要。建て主が町内会長に「建てさせてください」と来るが、そのときに「町内会への加入をお願いします」と言えるかどうか。そういうときに、行政も一緒に入って話をするとより望ましい。そういう場を生かすというところの情報発信、行政の力、いわゆる抑止力。そういう部分についてはぜひ支援していただきたい。「強制ではありませんけれども、お願いをしたい」と行政がしっかり言うのとそうでない場合とでは大きく違うということをご理解いただければと思う。 行政もほかの所管と一緒にあって、また大学とも一緒にあってどれだけ発信できるか、ワークショップをしたときにどれだけ発信できるか、計画づくりのときにどれだけ発信するか、それが私の考える人材育成だという気がしている。図の下のほうについても、行政の支援、情報発信技術の活用だけではなく、現場をうまく一緒になってコントロールしていくという切り口が出てくれば、大きな効果があると思う。